

沖繩市長 平和大使 中学生ら19人 長崎へ

「被爆体験学ぶ」



【沖縄】沖縄市平和大使

長崎派遣団の出発式が8日、市役所前で開かれ、市内の中学生16人、社会人3人の計19人が被爆地長崎へ出発した。平和大使は4日間の日程で現地に滞在し、9日に開かれる原爆犠牲者慰霊平和祈念式をはじめ、全国の平和大使が集う青少年ピースフォーラム、戦跡巡り、被爆地体験者講話などに参加する。

市平和大使は親子平和大使として1991年に始まり、被爆地の広島と長崎を交互に訪問している。出発前には、南部戦跡巡りや戦争体験者の講話など、沖縄戦についても学んだ。

出発式であいさつした安慶田中2年の知念ひとみさんは「被爆体験者がどんなに辛い思いをしたか学

び、沖縄に伝えたい」、宮里中2年の大石雅さんは「本当の平和とは何なのか、戦争の悲惨さを学びたい」と意気込みを語った。



原爆被害や平和について学ぶため長崎へ出発した沖縄市平和大使のメンバー＝8日、沖縄市役所前